

# 知事記者会見の概要

日 時：令和3年5月26日(水) 10:00～10:39

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：12名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 聖火リレーの実施について

### 代表質問

- (1) 南陽市などへの緊急事態宣言について

### フリー質問

- (1) 発表事項に関連して
- (2) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (3) 副知事不在の影響について
- (4) 代表質問に関連して

<幹事社：山新・時事・SAY>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。まず、新型コロナについて申し上げます。

昨日10人の新規感染者が確認されまして、累計で1,906人となりました。県内では、N501Y変異株を主体とする感染の第4波に入っているという認識です。5月11日以降、昨日まで15日連続で2桁の新規感染者が確認されているところです。

飲食店でのクラスターが連続して発生した南陽市では、人口10万人あたりの新規陽性者数が、25日現在で132.26人となっております。これは政府のステージ4の指標25人を大きく超えております。近隣の市町にも感染が拡大するなど、置賜地域の医療提供体制のひっ迫度も高まっておりますので、先週の土曜日22日に、県と南陽市と共同で、南陽市民の皆様や事業者の皆様には、不要不急の外出自粛、基本的な感染防止対策の徹底、業種別ガイドラインの遵守の徹底などの合同要請を行ったところです。

一日も早い収束に向けて、南陽市民の皆様、事業者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

感染者からご家族に感染する事例が大変多くなっておりますので、ご家庭にウイルスを持ち込まないためにも、県民の皆様には、感染のリスクが常に身の回りにあるという意識を強く持っていただき、正しいマスクの着用や、こまめな手洗い、消毒、三密回避、換気の励行など、基本的な感染防止対策を、これまで以上に徹底していただきますようお願いいたします。

また、深酒やはしご酒などは控えていただき、飲酒を伴うカラオケの利用は控えてください。

5月に入り、飲食店でのクラスターが複数発生しており、中にはマスクを外して接客していた事例も確認されております。飲食店の皆様には、従業員の健康管理をはじめ、業種別ガイドラインを遵守していただきますとともに、改めて正しいマスクの着用を徹底していただくようお願いいたします。

全国では、現在10の都道府県に緊急事態宣言が発出されています。また、8つの県にまん延防止等重点措置が適用されるなど、感染の再拡大が続いています。

県民の皆様、事業者の皆様には、改めて、緊急事態宣言や重点措置が適用されている地域との往来を控えていただきますとともに、新規感染者が多い地域、これは直近1週間で10万人あたりの新規感染者数が15人を超えている地域、現在、12県ございます。そういったところとの往来は、十分に注意していただきますようお願いいたします。

それから、私から発表が1点ございます。聖火リレーについてです。東京オリンピック聖火リレーの実施について、お知らせします。お手元の配布資料をご覧ください。

まず、公道での聖火リレーの実施についてです。本県における聖火リレーは、6月6日と7日の2日間行われます。実施まで2週間を切ってしまいました。いよいよ間近に迫っているところです。1日目は西川町を皮切りに10の市町で、2日目は天童市をスタートし、8市町で聖火リレーを行います。2日間で187名のランナーが走行いたします。なお、全国では緊急

事態宣言の発出などにより、公道でのリレーが実施できなかった事例も聞いておりますが、本県の場合、現時点では万全の感染防止対策を行いながら、予定通り公道での聖火リレーを実施したいと考えております。

次にセレブレーションについてです。最終ランナーのゴール地点で聖火の到着を祝うセレモニーとして、セレブレーションを実施いたします。1日目は山形市の山形県総合文化芸術館駐車場で、2日目は酒田市の飯盛山公園駐車場で開催いたします。ただし、セレブレーションにつきましては、スポンサー枠の観覧客やステージ出演者など、県外から来る方も見込まれているほか、比較的長時間の催しとなるため、より一層の感染防止対策が必要であると考えております。そのため、両日とも関係者のみの無観客で開催することといたします。これに伴い、予定されていたスポンサーのブース設置を取り止めるとともに、ステージイベントについても、県内団体の出演に限定する方向で大会組織委員会と最終調整を行っているところです。

なお、より多くの県民の皆さんから楽しんでいただけるように、動画によるライブ配信を行う予定としてございます。聖火リレーを安全安心な環境で実施していくため、さまざまな感染防止対策を講じて参りますが、いくつか具体的に申し上げますと、県外からの聖火ランナーに対して、リレーの前後にPCR検査を実施いたします。沿道においては、密になりやすい観覧ポイントへスタッフを重点的に配置いたします。なお、観覧される方々には、くれぐれも距離の確保やマスクの着用、また声を出さずに拍手などでの応援をお願いいたします。また、公道での応援の代わりにインターネットのライブ中継をご覧くださいなど、ご自宅からランナーの皆さんを応援していただく方法もございます。県としましても、市町村と連携しながら最大限の感染防止対策を行い、安全安心な環境で聖火リレーを実施したいと考えておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

私からは以上です。

#### ☆代表質問

##### 記者

幹事社のさくらんぼテレビです。1点伺います。先ほどもありましたが、県と南陽市では22日に合同要請を行いました。それ以降も新たなクラスターが複数発生するなど、新規感染者は増えています。南陽市や周辺市町の現状をどのように分析し、県独自の緊急事態宣言など、更なる対策についてどのように考えているかをお願いいたします。

##### 知事

はい。では、お答え申し上げます。南陽市内の飲食店で発生した3件のクラスターなどにより、南陽市はもとより利用者が居住する近隣の高島町、川西町などにも感染が拡大していることや、感染者からご家族への家庭内感染が増えていることが、新規感染者数の急増につながっていると捉えております。県では南陽市民に対する不要不急の外出自粛要請や濃厚接

触者等に対する幅広いPCR検査を実施しております。南陽市さんでも、小中学校や市立幼稚園等の臨時休業・休園や市独自の飲食店への営業時間短縮要請、市民向けの無料PCR検査などを実施しております。

また、南陽市では、市独自に飲食店に対する営業時間短縮要請を行うとともに、要請に協力した飲食店に対して、1店舗あたり15万円の協力金を支給すると承知をしております。県では、南陽市と連携した感染拡大防止の取り組みの一環として、この協力金について、二分の一負担することを検討しているところです。現在のところ、新規感染者のほとんどがクラスター関連でありますので、まずはこれらの感染防止対策にしっかりと取り組んで、感染を封じ込めて参りたいと考えております。県独自の緊急事態宣言などの更なる対策につきましては、こうした感染防止対策の効果や置賜地域の医療のひっ迫の状況をしっかりと見極めた上で必要に応じて、検討して参りたいと考えております。

☆フリー質問

記者

NHKの藤井です。聖火リレーの関係ですけれども、公道でのリレー、おっしゃったように全国で中止もあるということで、どのようになった場合に中止するかという基準は考えていらっしゃいますでしょうか。

知事

はい。確たる基準ということではありませんけれども、中止する場合の基準ですよね。やはり、緊急事態宣言そういったことを発せざるを得なくなるような、新型コロナウイルス感染症の感染状況ということによって思っています。

記者

発出というのは、県独自の緊急事態宣言とかそういったものであれば、公道でのリレーは中止せざるを得ないという考えですか。

知事

そうですね。政府によるというよりも、地域であります、地元のそれぞれの自治体の感染状況、そこに対して独自の緊急事態宣言を出さざるを得なくなるような状況というのがまずは考えられると思っています。

記者

山形新聞の田中です。N501Yの重症化のことでちょっとお聞きしたいと思います。先日土曜日、合同要請をなされた時に、N501Yのその重症化のリスクというものが本部員会議でも議論されたかと思えます。あらためて、40代、50代も重症化しやすいとか、無症状か

ら重症化に転じているとかという、この2つの事例がありましたけれども、もう少しお話しただけの範囲で、E484Kとは違う、N501Yの重症化の特徴みたいなものを、教えていただければと思います。

知事

はい。N501Y変異株ですね、その重症化しやすい例として、これまでは高齢者の方々ということが多かったわけでありましてけれども、この変異株に限っては、40代でも50代でも、重症化しているということが1つ挙げられますし、この間申し上げたとおりなのですけれども、それ以上のということにつきましては、今のところ私は聞いていないところであります。

記者

40代、50代とか、無症状から入院措置になる方というのは、たとえば1人とか、レアケースということではなくて、もう複数ケース、山形県内でも事例としてあるということになるのでしょうか。

知事

はい。その40代50代は、今のところ私がお聞きしているところでは、そんなに数は多くないですね。ですから、少ないのですけれども、そういう現象が発生しているということが1つあります。その無症状からということについても、どの位の人数で、発生率で起きているかということまでは、ちょっと後ほど具体的なところを担当のほうから聞きたいと思います。

記者

わかりました。山形県内第4波に入ったという認識を、この間の本部員会議でも示されました、明らかに違うと。そうするとそれまで、たとえばE484Kとかが流行していた時期というのは40代50代の方が重症化するということがなかったとか、それが新たに出てきたということになるのでしょうか。このN501Yに置き換わったことによって。

知事

そうですね。全くなかったわけではないのですけれども、本当に少なかったということがありますけれども、N501Y変異株になってからは、重症化した方々の中の発生率でいくと、やはり格段に前の従来株とかE484Kのほうが発生率でいくとかなり低かったのかなと思っています。

今回の重症化した方、5人のうちの2人くらいが40代50代であるというようなことからして、やはりちょっと率的には高い、発現率が高いのではないかというふうに思われます。

記者

山形放送の新野と申します。副知事不在の件であらためてお伺いします。6月定例会で副知事の人事案件出されるかどうか、また6月定例会ではなくても、副知事不在の解消というのは検討されているのでしょうか。

知事

はい。その件につきましては、常に私の念頭にはあるのですが、ちょっと目の前の新型コロナ対策ということで忙殺されておまして、先週は土日も含めて南陽市のほうの医療提供体制とか、そういったことで、またワクチン接種ということも進行中であります。諸々の新型コロナ対応ということで、ちょっと忙殺されている感がありまして、常に念頭にはあるのですが、まず目の前のコロナ対策にかかりっきりだという状況でございます。

記者

毎回お伺いしているのですが、県民から聞くとやっぱり副知事不在の問題というのは、県知事にとっても良くないし、県庁にとっても良くないし、県民にとっても良くないと、なので早く解消してほしいという声が聞かれるんです。県議会で否決されたわけですが、その党利党略、政局を超えて副知事の人事案を何とか成立させる方向で、解消する方向で持って行ってほしいという期待があるわけなのですが、それに対して知事は具体的に今後どういう行動をとられる予定とかありますでしょうか。

知事

はい。思いは同じなのでありますけれども、やはりたとえば提案するにしても全く可能性がないような中での提案というのはいかがなものかなということも非常に悩みますし、水面下でちょっとお電話でご相談申し上げたりはしているのでありますけれども、やはりどういうふうにしていったら打開できるのかといったことについても、ちょっといろいろ考えていきたいと思っています。

記者

今ですと、若松さんにこだわらずという捉え方でよろしいでしょうか。

知事

いえ、余人をもって代えがたし、と申し上げてきております。そういうことで、選挙で県民の皆様からご支持をいただきました。その体制も、現体制、それまでの体制が大変よろしいのではないかと、そういう評価をいただいたものというふうには思っておりますので、コロナの状況は変わっておりませんので、やはり若松氏ということで私の考えは変わらないところでございます。

記者

その若松さんの件では、やっぱり県民に正しく伝わっていない、なんでそれほどまでに若松さんがいいのか、知事がおっしゃるのかというのが伝わっていないような気がします。ちょっとまたあらためて少しお話いただけませんかでしょうか。

知事

そうですね。やはり、これまでも申し上げてきました、議会でも答えてきたと思いますし、彼のこれまでの総合調整力ということがありますし、また、新型コロナウイルス感染症ですね、その状況になってからの対策というのものも、私と一緒に的確に動いていただいているということがあると思って、第一にはやっぱりそこですね。コロナの状況が変わっていないので、体制はできるだけ変えないほうがいいと私は思っております。

記者

あとやっぱり県民に聞くと、県議会とか知事とか上の方の人達の争いみたいな形で、「県民が不在だ」ということを言われるのですけれども、それに対しては県民不在だと思われませんか、それともそういうことではないと思われませんか。

知事

そうですね。やはり、県民の皆様は状況をしっかりお伝えしながら、いろいろな視点というのものもあるかと思えますけれども、本当に選挙というのが1つ大きな県民の皆さんの意思表示があったと、審判が下ったということを考えてみますと、やはりそれをしっかりと私としてコロナ対策をやるようにと、継続してやるようにというのが1つの大きな県民の皆さんからの審判、判定だったかなと思っておりますので、やはりそのところは県民の皆さんもご理解いただけるのではないかなと思っております。

記者

共同通信、阪口です。聖火リレーについて伺いたいのですけれども、以前から知事、公道で予定通りに実施したいとおっしゃっていましたが。先週もおっしゃっていたと思うのですけれども、そこから医療専門家の方の会見があったり、合同要請もあったりして、若干状況も変わってきたのかなと思うのですけれども、知事、この間ですね、公道でのリレーを中止するとか、どうするのかと検討されたと思うのですが、どういう状況を見てこういう判断に至ったのか、その経緯みたいなものを教えていただければと思います。

知事

はい、わかりました。そうですね、先ほどNHKの記者さんにもお答えしたのですけれど

も、独自の緊急事態宣言が発出している、そういう状況でありましたらば、公道でのリレーを、聖火リレー実施を中止するということもあり得たと思っています。が、山形市、寒河江市の緊急事態宣言は解除になりましたし、あと今、南陽市が合同要請を行っているところでもありますけれども、そこをしっかりとウイルスを封じ込めていくことで実施可能にしていければというふうに思っています。やはり、感染状況をしっかりと見極めながら考えておりますので、今は南陽市近隣の市町といったところですね、しっかりとウイルスを抑え込むということに注力をしまして、公道でのリレー実施ということに持っていければと思っています。

もともとやはり多くの県民の皆さんが実際に聖火リレーを、直接生でご覧になることで非常に思い出になったり、非常に喜びとか希望とかいろいろなことがあるかと思って、プラスの影響があるかと思っていますので、やはり県民の多くの皆さんに楽しんでいただきたいというのが、そもそもはあります。ですが、やっぱりコロナの状況でありますから、感染状況を見極めながら、これからも判断をしていかなければいけないと思っています。2週間を切ったわけでもありますけれども、まだ明日明後日というわけではありませんので、しっかりと感染状況を見極めながら判断していきたいというふうに思っています。今のところ、現時点では実施できるというふうに考えているところです。

記者

中止ということは、知事の頭の中によぎられたですか。

知事

そうですね、やはり、山形市と寒河江市に独自の緊急事態宣言を共同で発出した時には、それはよぎりました。特に山形市は2週間でなかなか沈静化しなかったもので、3週間に及んだと思っていますけれども、あの時には本当によぎりましたが、現在は1桁の低いほうの水準になってきていると思っていますので、現時点だとちゃんとできるのかなという判断をしているところです。

記者

ここ1か月くらいにわたって、私「実施どうですか」と伺っている中では、特に中止ということは、この南陽市のような状況が起きて、よぎってはいらっしやらないという理解でいいんですね。

知事

はい、南陽市も今のところ新規感染者が出ておりますけれども、だいたいクラスターから発生しておりまして、感染経路不明者というのは案外少ないということがありますから、南陽市さんと合同で、しっかりと要請をして対策をすることで、何とか沈静化させていきたい

というふうに思っていますので、今のところ中止というふうには考えていないところです。

記者

もう1点すみません。先ほど10都道府県ですかね、今緊急事態宣言が出ていて、東京とか大阪、九州もですかね、延長という話が出ております。現状、現段階で詳しい数字はもちろん、当該の都道府県じゃないので、知事の手元には数字はないと思うのですけれども、今の状況、全国的な状況をどういうふうにご覧になっていて、今回の延長の判断、山形にいらっしゃる観光客の方とかだいぶ少なくなっているとは思いますが、どのように受け止めていらっしゃるのか伺えますでしょうか。

知事

はい。緊急事態の延長ということで報道では承知をしております。特に大阪が、要請をしたというようなことも報道で承知をしております。やはり、現場を最もよく知る、自治体の長が、延長したほうがよいという判断をされていますので、そういうことであれば延長をして、しっかりと沈静化に持っていくことが大事だと思っています。特に大阪の場合、医療ひっ迫が大きいんじゃないかと報道を見て感じているところです。医療のひっ迫というのはやはりコロナの患者さんのみならず、本当にほかの病気で本当に治療が必要な方も治療を受けられなくなるというようなことも起きていますので、そこは本当にそういう事態にならないようにすることが、やはり県民、国民にとって大事なことかなと思っていますので、いたし方ないのかなという思いでいるところです。

また、6月20日までというような期限も、取り沙汰されておりますけれども、その分やはりまた経済とか生業にしている飲食店の方、観光業の方々がまた大変な思いをされるかと思っておりますけれども、そこはやはり延長となればいろいろな経済対策というものをセットにして、やはり事業継続といったことにもしっかりとご配慮いただければというふうに思っています。

記者

河北新報の奥瀬です。聖火リレーで各市町で行われるミニセレブレーションについて伺います。市町村によって感染状況が異なると思うのですけれども、現時点で、県として統一的にイベント自体の規模の縮小を求めるとか、そういう全県的な対応を求める考えがあるかどうかをお聞かせください。

知事

はい。市町村で行うものでありますので、主体的にはやはり市町村が考えるべきと思っています。ただ、担当から聞いているところでは、そんなに長時間に及ぶものではないということでありまして、地元での集まりというようなことになるかと思っておりますので、セレ

ブレーションの場合とはまたちょっと違うのかなと思っています。セレブレーションの場合ですと、県外からも結構いらっしやったり、そんなこともありますので、本当にいろいろと考えなければいけないということで、PCR検査なども県のほうから要請したところがあります。また、無観客にさせていただきますが、それぞれの市町村ですと、地元でということになりますので、感染防止対策をしっかりととっていただきながら取り組んでいただくのは、そんなにリスクが高いということにはならないのかなという思いを持っています。

記者

営業時間短縮要請の考え方についてお聞きしたいのですが、これまで宣言とセットでされてきましたが、今回南陽市だとレベル3のままですよね。そこでされたということで、飲食店でクラスターが相次ぐとかそういったことになれば、これからそういった機動的に時短の要請を行っていくという考えがあるのでしょうか。そのあたり考え方をお聞かせください。

知事

はい。時短の要請、これまでですと山形市と寒河江市の時には、県とそれぞれの市が、共同で独自の緊急事態宣言を発出いたしました。県としても時短を要請したという経緯がございます。それで協力金ということもこちらからお出ししたということがありますが、今回の南陽市の場合は、合同要請という形態でありまして、その中で南陽市さんが独自に時短を要請するというふうにおっしゃって、そして市長さんとお話したわけなんですけれども、市として独自に協力金をお出ししたいということで、県も手伝って支援していただければというようなことをお話をお聞きして、県としても、県からの要請ではないのですが、南陽市さんを支援するという形での支援を考えているところです。

記者

お聞きしたいのは考え方の話で、そういう時短要請というのを早めにやるべきなのかというところをお聞きしたいのですが、要は緊急事態宣言という基準に至らなくても、そういった機動的に時短要請をすべきかどうかという、その辺はどうお考えですか。

知事

そうですね。それぞれの地域の状況にもよるかと思っていますのですが、南陽市さんの場合は、その発端が飲食店というところから始まっています、しかも複数のところで、そこから始まっていることが明確でありましたので、南陽市さんは迅速にそのことを決定されたというふうに思っています。ですから、感染の状況次第で時短を要請するかしないかということも、やはり一律ではなく、今回の場合はそれが的確なご判断だったのではないかなというふうに思っています。

記者

わかりました。最後に1点。副知事の話で、総合調整能力とも知事おっしゃいましたけれども、そういった役割、副知事には期待されると思うのですが、市長会からもいろいろ予算関係で批判があったように、調整に欠けているのじゃないかという、県と自治体の調整能力、副知事の役割だと思うのですが、そこがまた若松氏にこだわれば、不在になる期間がどうしても長くなるということが、可能性どうしても高いと思いますよ。それに対しては、こういった調整能力が欠けている状況が続くということになれば、県民へのその説明としては、こういったことを考えていますか。

知事

調整能力が欠けているとか、優れているとか、どういうところで評価しているのかわかりませんし、まず選挙から始まっているんですね。その複数の市長さん、数人の市長さんたちに限られたご発言だったと思います。選挙とね、あんまり関係してほしくないなと私は思っているのですけれども。今そのことについて深くやり取りすることはなかなか難しいかと思っていますけれども、これまでやはり非常に総合調整が優れているということを議会の方々からお言葉をいただいていたわけですし、うまくいっていたからこそ、コロナ対応ということも、一緒にやってこられたのではないかというふうに私は思っております。そういった意味で見解の相違といったこともある程度あるかもしれませんが、一方的に数人の方々から言われたからといって、それが事実だというふうにはならないかなというふうに思っています。やはり、声を上げない方々でも非常に優れているというふうに思っているしやる方々もいらっしやると思うし、声を上げる方の声だけが非常に大きく響くわけでありますので、そこをどういうふうに判断するかということだと思っています。

記者

いや、若松氏云々は置いておいていいのですが、要は6月議会を考えた時に、若松氏再任の方向では難しいということは知事もおわかりですよ。というか難しい状況が続いていますよね。そういった中で、先ほどやはり若松氏とおっしゃったので、ということは副知事不在の時期がどうしても長くなるじゃないですか。それについては、県民が、副知事という存在がいなくていいのかということに対して、知事としてはこういった説明をされていくのかということをお聞きしたいです。

知事

大変難しいですね。今の記者さんのお言葉ですと、難しいということであって、まだそれを私は難しいということを確認したわけではありません。難しそうだというような雰囲気は思っておりますけれども、ただしっかりと私として説明を申し上げるということもあ

るのかなと思っています。6月議会に向けてですね。だからまだ今の時点で無理というようなことではないというふうに思っています。

記者

じゃあ、そういうことは、自民党サイドに対してそういった説得を試みていくという、そういったことですか。

知事

そうですね。やっぱりご説明申し上げなければならないのではないかなというふうには思っています。